

<b>第5回 第1分科会会議録（概要）</b>		場 所	新宿区役所第二分庁舎 1-⑦会議室
日 時	平成17年8月22日（月） 午後1時30分～午後3時30分	記録者	【学生補助員】 田多井 さやか
		責任者	区事務局（菊地、並木）
<p>会議出席者：36名、傍聴者1名 （区民委員：30名 学識委員：1名 区職員：5名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>① 次第</p> <p>② 第4回会議録</p> <p>③ 第4回グループ発表内容（模造紙）</p> <p>④ 第3回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ</p> <p>⑤ 「地域の中での子育て」グループからの資料提供希望カードによる「区施設の再利用計画」</p> <p>⑥ 「親への子育て教育」グループ委員からの資料提供「新宿区の親教育関係の取組みについて」その他関連資料</p> <p>⑦ 子ども家庭課からの資料提供「榎町児童センターのお知らせ（中学生&amp;高校生のためのスペースがあります）」及び広報しんじゅく（平成16年8月5日号）の写し</p> <p>■進行内容</p> <p>1 本日の進め方について</p> <p>2 「親への子育て教育」グループ委員からの資料説明</p> <p>3 子ども家庭課からの資料説明</p> <p>4 グループ討議</p> <p>5 グループ討議の報告</p> <p>6 事務連絡</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1 第4回の内容確認と今回の進行方法</p> <p>○：第5回目分科会を開催します。ではまず、配布資料の確認をさせていただきます。次第、第4回の会議録、前回のグループ発表で皆さんに書いていただいた模造紙を印刷したもの、第3回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ、「地域の中での子育て」グループからの資料提供希望カードとその資料としての「区施設の再利用計画」、新宿区の親教育関係の取組みについて（「親への子育て教育」グループ委員からの資料提供）、子ども施策への参考資料として、榎町児童センターのお知らせと広報しんじゅくの写し（子ども家庭課からの資料提供）となっております。また、今回、</p>			

汐見先生は夏風邪でダウンされたとのことで欠席です。

◎：(杉山) こんにちは。今日も前回に引き続き、基本的にやることはグループワークをすることになると思うのですが、その前に前回の振り返りと今日どんなことをやるのか、汐見先生から言付かっている注意点も含めてお話ししたいと思います。

前は各グループごとにテーマを決めて、現状と課題を出し、解決策を考え、まとめたわけですが。各々の意見をタックラベルにまとめ、課題ごとに分類したものが黒板に張ってあります。前回の話したことを思い出すために、利用してほしいと思います。

前回の大きなトピックとして、子どもたちの居場所がないという問題と、それに付随することとして、大人との関係性や子どもたちの中での新たな関係性を築くことができにくいことが、多く挙げられていることが分かりました。また、それに対する解決策として、交流の場の必要性や伝承遊び、地域のイベント開催が挙げられました。また、子どもたち自身にイベントの中身や運営を考えさせるという意見を出されているグループもありました。その外の問題点や解決策では、保育園に保護者会が無い・幼稚園の夏休み期間に地域に開放する・父親の子育てへの参画の問題等が出されました。

また、汐見先生からは、第一に、父親の問題や働き方の問題など、前回あまり言及されなかったテーマや、まだ出されていない問題についても、もう少し突っ込んで検討していただきたいということです。第二に、前は時間が足りなかったということもあると思いますが、解決策をより具体的な形で考えていただきたいと伝言を受けました。例えば、資金調達やスタッフの確保をどのようにするのかなど、現実的な解決策を検討してほしいということです。さらに、第三として、どこまでが行政のすることで、どこまでが自分たちでできるのかの線引きを明確にして、提案していただきたいということです。その中で「新宿区次世代育成支援計画」の冊子と重なるテーマが出てくると思うのですが、解決策を参照することで参考になることもあると思います。

また、子供の参画に関してのところ、子ども家庭課の関原主査に新宿区の行っているいくつかの取り組みを紹介していただきます。今後も、区の職員の話という機会をつくっていただけると考えております。

ではその前に、田谷委員から資料の説明をしていただき、次に関原主査にお願いいたします。

●：(田谷) 親への子育て教育グループの田谷と申します。親教育の話し合いの場で参考にとりて用意したものです。新宿区の現状を知らないで話を進めると、堂々巡りに陥ることが間々ありますし、既に区で実施している施策を解決策として挙げたりしますので、それを防ぐために作った資料です。どういう施設で子育ての支援が行われているのか、場所によって全然取り組みも変わってくることを感じます。子ども

支援センター、ゆったりーの、支援センター二葉の活動を載せました。特にゆったりーのの事例にある子育て座談会や両親講座などの具体的な試みなど、参考になると思います。他にも色々なところで活動が行われています。問題はその活動が広く知られていないことです。第1分科会では、子育ての話が出ていることですし、まず現在の活動を把握し、そこから発展していければいいのではないかと考えました。また、新しいことを考えるのではなくて、今行われている活動や取り組みに乗っかる形で、施策を考えていくほうが効率的なのではないかと思いました。以上です。

◎：(杉山) はい、ありがとうございました。では次に関原主査おねがいします。

○：(関原) こんにちは。子ども家庭課の関原と申します。少しお時間をいただいて、子どもたちがどのように、区の事業に参加しているかの事例を2点ほど紹介したいと思います。グループ討議の中で、子どもたちにイベントの企画や運営を任せてみてはどうかという意見もありましたが、区でも次世代育成支援計画の目標のトップに子どもの参加する権利を大切にしたいという位置づけをしております。お手元のプリントをご参照ください。まず初めに榎町児童センターのワンフロアに中高生が専用に使えるスペースを設けたものです。これは平成15年度に、榎町近隣の中高生にアンケートを取り、どんなスペースでどのような道具があったら児童館に来たいかを聞きました。また、併せて自分たちで企画会議をやりませんかと呼びかけました。それを踏まえて、何回か集まり、ワークショップ形式で意見交換をし、模型を作って家具を実際に配置するなどをして、それを予算に反映させて16年度に整理が終わったところです。また、この企画はスペースが出来た段階で終わりというのではなく、プリントの裏にも載せましたように、月1回中高生会議を行っています。この会議では、スペースを利用するにあたってのルール作りや、毎月行っている館の行事の企画を考えたりしています。

次に二つ目の事例ですが、広報しんじゅくのコピーの下方にある「しんじゅく写真館」をご覧ください。新宿区にあるあかね児童遊園は、老朽化に伴い改修されることになりました。そこで区ではこの改修に際して、大人のワークショップと子どものワークショップを開催しました。その後の両者の討論会を経て区に提案がなされ、区では、そこで出された改修案を採り入れることにしました。この計画案に基づき、今年の3月に無事オープンすることが出来ました。このように区のほうでも、子どもたちが使う施設においては、子どもたちの参加によって既存施設の改修案を取り入れ始めたという事例の紹介でした。以上です。

◎：(杉山) 皆さん、田谷委員か関原主査に何か質問はありませんか。

●：榎町児童センターの取り組みについてなのですが、「夏休み号」にあるイベントには何名くらい参加されたのでしょうか。

○：(関原) 今詳しい資料が手元にないので細かいことは分からないのですが、例えば定員20名の生活体験実践ですとほぼ満員になる状況です。

- : 榎町児童センターの自己意見発表会(中高生会議)の参加者数は？
  - : (関原) 月によって幅はありますが、大体 10 名ほど参加しています。また、中高生だけが専有して使える時間帯に行なわれる全館鬼ごっこなどの催しは、20 人 30 人集まって、皆で楽しんでいる状況です。
  - : 榎町児童センターの5階にある図書室というのは榎町にある図書館のことなのか？
  - : (関原) こちらは、児童センターの中にある、図書の読めるスペースが一部屋ありますということで、図書館ではありません。数十冊程度の本を置いていますが、貸し出しを主にしているのではなく、児童センターを利用する人の中で「動」ではなく「静」の部分としての居場所として運営しています。
  - : 榎町児童センターの中高生スペースの立ち上げの際の企画会議やあかね児童遊園のワークショップの宣伝や人選はどのようになされたのですか？
  - : (関原) 榎町児童センターの近隣にある中学校の生徒にアンケートをお願いしています。その中から、会議に参加を希望する人を募って運営しました。一方、公園づくりワークショップの方は、ワークショップのお知らせを広報に掲載し、こうした取り組みを行ないますという周知と併せて募集を行いました。
  - ◎ (杉山) : 今あったように、区として取り組んでいることは意外にあります。問題はこの事実があまり良く区民に伝わっていないということです。情報の伝え方を課題にして検討し、解決策を模索していくのもひとつだと思います。また、活動内容においても、運営の方法を見直して、より良い取り組みを検討してみると建設的な議論となると思います。

前回問題とした課題を続けて考えていくのではなく、少し違った視点で出来るだけ具体的に、今ある課題を解決するにはどうしたらいいのかという話が出るように進めて行って頂けたらと思います。

これから議論に入るのですが、前回と同じように2時から2時10分の間に検討する課題を決めていただいて、その後3時10分をめぐりに、ディスカッションと紙にまとめる作業をしていただいて、3時10分から3時30分の間にグループ発表とさせていただきます。また、今日は3時30分から10分くらい各班のリーダーの方に残っていただいて、今後の分科会の進め方をご相談したいと思いますので、お時間の許す委員の方は残っていただけたらと思います。
- 2 : グループ討議 (15 : 10~15 : 30)
- 乳幼児 : なぜ産まない、育てにくいか
  - 親教育 : 参加してもらうためには
  - 青少年 : 青少年に対してできること
  - 地域 : 子どもの安全な居場所を確保するための具体策
  - 環境 : 社会のビジョン

日本人のアイデンティティについて

子どもたちの社会作り参加

小中学生：教師の質の向上

発表シート（基本フォーマット）

※各グループが大きい模造紙に書き込み、ホワイトボードに貼り付け全体発表。

テーマ	グループ名
<p><u>現状</u></p> <p><u>問題点</u></p> <p><u>課題</u></p> <p><u>解決策</u></p>	

### 3. グループ討議の報告

●：(環境)

テーマ：(新宿区の) 社会としてのビジョン	グループ名：子育てのための環境
<p>1. <u>(新宿区の)社会としてのビジョン</u></p> <p>私たちのグループの中で意見として出たのは、新宿区としてのビジョンをはっきりとすべきだということでした。新宿区は江戸文化の中心であった場所ですから、江戸文化をモチーフにした環境循環型の社会をつくっていかうというものです。そして、こうしたものと今のエコロジーを掛け合わせた新しい街のあり方をPRしていったらどうだろうかというものです。</p> <p>2. <u>日本人のアイデンティティ</u></p> <p>落語、浪曲、講談、職人技術といった江戸文化を伝える寺子屋とか歴史塾といったものをつくって、子どもたちに伝承していく。</p> <p><u>解決策</u></p> <p>区でも今まで、個々には多くの子育ての対策を図ってきているが、大きなまとまりにはなっていない、ただ人材不足を嘆いているばかりのように感じられる。なかなか発展していけないことが、一番の課題だということになりました。区がボトムアップで小さなことをこつこつと行なっても、大きな波として波及し</p>	

てきません。何かひとつトップダウンの形でPRすることが大事だと思います。住民参加でボトムアップで取り組むことも大事ですが、区としてトップダウンで50年先、100年先の区の大きな未来像を示すことが重要なのではないのでしょうか。その後に来年はこうする、再来年はこうするといった小さな未来像をボトムアップで具体的に提案していく、トップダウンとボトムアップのバランスが大事ではないかと思いました。そして、新宿区は今後こうするんだということをメディアにどんどん訴えて、戦略的に大きな流れをつくっていかなければならない。

例として、今年の8月から施行された新宿区の歩きタバコ禁止条例は、日本中にPRしたことで、短い間に区内だけでなく区外にも、あつと言う間に情報が伝わった好い例だと思います。タバコのポイ捨て対策を地域の中で、たくさんもたれたと思いますが、その対策を新宿区がメディアに大きく打ち出した良い例です。これからは、メディアを利用して新宿区の未来像をどんどん出してほしいということが今日の結論です。

◎：(杉山) PRについて、具体的にはどんな活動を考えていますか？

●：例えば、8月に行なわれる打ち水デーに新宿区として乗かって、この日、一日は浴衣で過ごして、昔の日本の環境はこうだったんだというようなことを地域で考えていくなどが意見として出ました。

◎：(杉山) それですと、企画になってしまいますので、次回からは環境面から子育ての方向性を示すような課題設定をされると良いと思います。

●：(乳幼児)

テーマ：なぜ産まない、育てにくいか	グループ名：乳幼児
-------------------	-----------

今日はテーマの検討に入る前に、グループで区内の施設見学を計画しているので、そのスケジュールを決めました。実を言いますと、今日はスケジュールでほとんどが終わってしまいました。見学を企画したのは、自分たちがどの程度、子育て施設で行われていることを知っているのか、そもそも保育園にしても、認可保育園、無認可保育園、認証保育所、保育室の違いは何なのかといったことが分からない中で、検討しても始まらないということで、まずは施設の具体的な活動を見学しようということになりました。

見学 柏木・淀橋コース／牛込コース の日程決め

- 1 柏木・淀橋コース 9月9日(金)  
成子坂保育園→淀橋幼稚園→北新宿第一保育園・児童館(幼児サークル)→北新宿第二保育園
- 2 牛込コース 9月21日(水)  
原町みゆき保育園(みゆきひろば)→薬王寺児童館(乳幼児スペース)→榎町児童センター(乳幼児スペース)→マミーズハンド神楽坂→ゆったりーの

課題 具体的な問題解決にはあまり言及できなかったですが、メンバーの中で、今、

もうひとり子どもを産もうと考えた場合に躊躇する原因を考えてみました。

- ・育児の負担感がある(核家族で、共稼ぎの場合は育児の時間が持てない)。
- ・経済的な問題で産めない。解決策として、3人目から保育料の無料化が挙げられました。
- ・保育園に入りにくいという問題がある。解決策として、入園手続きの簡略化が挙げられました。
- ・女性の生き方の問題(女性の人生観、親としての責任感の変容)がある。
- ・育児技術の問題(知識の無さ、マニュアル頼りの子育て、子育ての楽しさ知らず)がある。
- ・狭い住宅事情の問題がある。
- ・生物学的限界(年齢の問題)で産めない。

といった課題が挙げただけで、今日は終わってしまいました。

◎：(杉山) 課題だけで、新聞等で見たものと一緒という感じで終わってしまいました。整理の仕方として、課題ごとに、国に言うべきこと、都に言うべきこと、区に言うべきこと、区民で行なうべきという見地から整理してみるのも、ひとつだと思います。また、区でできることにも限界があったりするわけですから、そういった現実的な見地からも解決策を検討してほしいと思います。さらに、区内全域では無理だけれども、ある地域では取り組みが可能な取り組みがあるのかといったことも検討されると良いと思います。それから、施設見学については、今後区内には幼稚園と保育園の統合施設もできますので、どんどん見学はしていただきたいと思います。次回の報告を楽しみにしています。

●：(小中学)

テーマ：教師の質の向上	グループ名：小・中学生
<p>現状：教師が子どもの要望に答えられない、答える時間の余裕がないという現状</p> <p>解決策：①PTAが活発に活動している地域は、学校の質も良いと思われます。開かれた学校であれば、PTAが積極的に学校に要望や提案を提出できたり、お互いに交流が持てたりする。</p> <p>②親と先生の信頼関係についても、①と同様の取り組みで構築できる。</p> <p>③学校の中心者である校長や副校長の質の向上が重要として、他区でも行なわれている一般公募制度を取り入れてみるとか、特色ある学校づくりの一環として、ある程度の期間を同じ学校に赴任してもらうように、人事権を都から区へ移管させる。</p> <p>④学校評議員制度の活用ということで、具体的に誰が、いつ、どのように活動しているのかを地域に知らせる。</p> <p>⑤先生の免許更新制度、仮採用時点での資質の判断(朝日新聞からの切り抜き)が重要である。</p>	

◎：(杉山) 教師の質と言った場合、1つではないと思います。例えば、教え方が上手だとか、子どもの心を掴むのが上手いとか、いろいろあると思います。そこらを整理して、教師に必要な質とは何かを考えてみると良いと思います。また、学校と家庭と地域の連携の方法についても検討課題に挙げても良いかと思います。学校評議員制度については、実は私も詳しくはないので、踏み込んで調べていただいて、区の現状を報告いただくと面白いかなと思います。

●：今の発表に対して、提案があります。

地域の方々为学校の行事に参加することは最近、よく見受けられますが、逆に、学校の先生が地域の取り組みに入っていけるプログラム作りをぜひ考えてみていただきたいと思います。

地域と密な関係を作っていくために、公立学校の先生が1校に勤務する年数を長くしていける方法を考えていただくとよいかと思います。

●：(親教育)

テーマ：参加してもらうためには・・・	グループ名：親への子育て教育
--------------------	----------------

本日のグループ討議の前に、田谷委員から説明があった新宿区の親教育関係の取り組みの中にあります子育て支援センター二葉のような施設を区内に何箇所も作ることは、予算的に不可能ですので、新宿区との協働ということで、子育て家庭の近場にある保育園、幼稚園、学校に親のしゃべり場を展開できればいいかなと考えました。また、世代間の交流として、若い母親たちの子育ての悩みを相談できる場や地域とつながりを持つきっかけとしても場が必要です。その輪が広がっていけば、40代、50代の母親たちや父親たちといった世代を越えて、昔の子育ての話を聞ける場になったら良いなという意見が出ました。そういった話を誰がするのかという問題には、ここに書いたように推進協議会というものを民間で行い、実際に子育てを経験している私たちのような者が、話しをしてもよいのかなという意見も出ました。

次に、若い母親が参加してもらうにはどうすれば良いのか、あるいは知らせ方はどうしたら良いのかということですが、一番の理想は、口コミではないのか。ほかに町会の掲示板に載せるとか、ポスター・チラシを作って配布するとかの意見も出ましたが、まだ意見がまとまっていません。

また、近場の施設中には、保健センターや地域センターに民間が入って行って、子育ての悩みや相談を受けてくれることも考えました。

◎：(杉山) しゃべり場は前回の居場所のことだと思いますが、実際に区のどこで行うのか、資金はどの程度必要で、誰が調達するのか、具体的に誰が運営するのか、こうした取り組みを区とどういった関係で行うのかといった、実際に出来るのか出来ないのかといった検討を「ゆったりーの」等を参考に重ねてほしいと思います。



●：(地域)	
テーマ：子どもの安全な居場所を確保するための 具体策	グループ名：地域の中での子 育て
<p>私たちのグループから資料提供希望カードを区に提出したことにより、本日皆さんに事務局から提出された「区施設の再利用計画」を参考にさせていただきたいと思えます。それを読みますと、四谷第四小学校と戸山中学校については、区の方も具体的な再利用案が出ていませんでしたので、地域グループは四谷第四小学校と戸山中学校の具体的な再利用を考えてみました。そして、再利用案の名称を「仮称 フェニックスプロジェクト」と銘を打ちました。再生とか廃校利用と言うよりも、英語にしたことでアピール度が高いと思えました。</p> <p>具体的にはフェニックスプロジェクト委員会を作り、メンバーを公募します。その際、対象は区在住・在勤者で、年齢は問いません。資金調達については、債権発行や区民に一口いくらとして資金を提供していただいたり、サービスを提供していただいたりしてもらうことを考えました。そして、区の協力が必要ですが、提供者には区から公的サービスを優先的に受けられるメリットを与えることを考えました。</p> <p>プロジェクトとしては、校舎を利用して子どもの起業家ショップとして、子どもに資金を与えて商売をさせてみたり、区民からショップへの寄付を募ってみたりします。また、廃校舎の利用ですからスペースに余裕がありますので、改修して民間にスペースを貸し出しすることで資金を調達できると考えました。プロジェクトの立ち上がりの資金は、先ほど説明した債権発行や区民からの提供を考えております。</p> <p>その外、区に協力をお願いしたいことは、現在、子どもに関する情報が教育委員会や子ども家庭課や保育課といった組織に分散して存在していますので、「こども課」といった組織をひとつ創ってもらい、そこからこども関係の情報は全て発信してもらうことです。また、子どもに関する情報の発信はフェニックスプロジェクトで立ち上げたショップでも行なうことも意見として出しました。</p>	
◎：(杉山) かなり具体的な提案が出ていて、良いですね。もっと詰めていけば実現できそうな感じですね。ただ、このプロジェクトは、区の施設を利用して行なうのですから区が協働することで区全体にとってどんなメリットがあるのかを明確にする必要があります。あるいは区の基本構想、基本計画の中で、この提案がどう位置づけされるのかの検討もしていただければいいかと思えます。	
●：いまの発表に補足させてください。四谷第四小学校の跡地については、区の方で既に「四谷ひろば」というものが立ち上がることになりまして、検討会の公募ももうすぐ始まることになっています。検討会のメンバーに子どもは含まれませんが、地域の方をメインとして、四谷特別出張所が中心となって行なわれます。ぜひ、第一分科会	

の皆さんも興味がありましたら公募に参加して下さい。

●：(青少年)

テーマ：青少年に対してできること	グループ名：青少年
<p>今の青少年に対して、大人ができることは何なのかを今回、検討してみました。前回検討した居場所づくりも大人が考えなければならないことですが、その外に何が出来るのかを青少年の現状にそくして考えてみました。</p> <p>最初に青少年の現状を抽出しました。ひとりっ子の家庭が増えてきたことで、子どもたち相互のコミュニケーションも上手くとれなかったり、人間関係を上手くつくる事が出来なかったりしている。小さい頃からテレビゲームをしているうちに、現実と仮想の区別がつかなくなってきている。繁華街を目的も無くうろうつく一因として、自分が打ち込めるものを持っていなかったり、家庭に安らぎの場がなかったりしている。街に青少年に有害なものが蔓延している。例えば、薬物であったり、ポルノビデオや図書などです。</p> <p>次に、青少年に対して行政、家庭、地域でそれぞれできることは何かということを検討いたしました。</p> <p>行政としては、少子化の一因として子育ての経済的負担感を取り除く支援をする。また、都の青少年健全育成条例が今年改正され罰則も厳しくなりました。この条例が完全に実施されるように、区の青少年に係る様々な組織や委員が中心となり徹底していく。</p> <p>家庭としては、ひとりひとりの親が自分から積極的に地域に出て行くことで、子どもたちも参加しやすい環境を整えてやることです。</p> <p>地域としては、青少年が地域のイベントに参加しやすいような企画を考えたり、あるいは青少年も企画に参加させたりして、汗を流せるような経験をさせる仕組みを考えていくことも必要です。非行少年については、地域で受け入れることが出来る体制をつくる。また、問題を抱えた家庭には、地域でサポートできる体制をつくる。</p>	

◎：(杉山) 新宿という土地柄ですので、青少年に対する取り組みは、他の自治体に比べて独特なものがあってもよいかと思えますし、重要な課題だと思えます。この分科会を最初に開いた際に、皆さんからこの分科会でこんな議論をしたいかと発言していただいた中に、新宿区の子どもたちだけでなく、週末や夜に新宿に遊びに来る子どもたちのことも考えたいというものもありました。私も同様の考えでございまして、解決策としては、都条例で徹底して規制するのも一つですが、おそらく新宿に多くの青少年が集まるというのは、彼らにとって新宿は魅力的な街だからだと思えます。逆の立場から、街の魅力は何なのかを考え、条例で押さえ込むことだけでは解決できない気がします。ですから、歌舞伎町に負けないような魅力で、しかも健全な場所を区内につくる必要があり、それを大人側が未だプレゼンテーションできていないことが課

題ではないでしょうか。次回は、具体的に何をしたら良いかをより突っ込んで議論をしていただけたらと思います。また、今回はグループでお二人しか出席されなかったので、次回までに欠席されたメンバーの方に今日の検討内容をお伝えしておいてください。

4. 事務連絡

○：今日は皆さんお疲れ様でした。各班のリーダーの方で、本日、残ってお話の出来る方は前のほうにお願い致します。本日はこれで解散となります。

**第6回**

日時：9月13日（火）午後4時から6時

場所：戸塚特別出張所 地下一階 集会室

**第7回**

日時：9月26日（月）午後6時30分から8時30分

場所：新宿区役所第一分庁舎 7階研修室